

工藤直子「野原はうたう」要点と 期末テスト対策ポイントまとめ

「野原はうたう」どんな詩なの？

「野原はうたう」は、工藤直子（くどうなおこ）さんが作った詩。

1. 「たんぽぽはるか」による『あしたこそ』
2. 「かまきりりゅうじ」による『おれはかまきり』
3. 「のぎくみちこ」による『あきのひ』
4. 「けやきだいさく」による『いのち』

という4つの詩からできているよ。

それぞれ春・夏・秋・冬をテーマにした詩だね。

「たんぽぽはるか」とか、「かまきりりゅうじ」、「のぎくみちこ」、
「けやきだいさく」は本当にいるわけではなくて、それぞれの季節の詩を、それぞれの季節を代表する自然のキャラクターたちが「うたっている」ように書かれているんだね。

テスト対策ポイント① 詩の情景と内容を理解しよう！

『あしたこそ』の情景と内容

『あしたこそ』のテーマは春。
うたっている自然のキャラクターは「たんぽぽ」だね。



情景

たんぽぽのわたげが飛んでいく様子が書かれているよ。

内容

わたげは、自分が育ってきたたんぽぽから旅立って、風によって飛んで行って、新しい場所で花を咲かせるね。

タイトルの「あしたこそ」は、わたげが風によって飛んで行って、「明日になればきっと」新しい場所で「新しい土」や「新しい周（まわ）りの花」や「新しい虫」なんかに出会える、という意味をこめているんだね。

「はなひらくひをゆめにみて」は、新しい場所で花を咲かせること、「たくさんの『こんにちは』にであうために」は、新しい場所で「新しい土」や「新しい周（まわ）りの花」や「新しい虫」なんかに出会うことを表現しているね。

「とんでいこうどこまでも」には、たんぽぽのわたげが旅立っていくときの「決意」が表現されているよ。

『おれはかまきり』の情景と内容

『おれはかまきり』のテーマは夏。

うたっている自然のキャラクターは「かまきり」だね。

情景

夏になって、元気いっぱい生命力があふれている「かまきり」が、生き生きとしている様子が書かれているね。

内容

かまきりは「カマ」を持っていて、獲物（えもの）をとったりするよね。

「あまりちかよるな」は、自分はとても元気で生命力にあふれていて、「カマ」の調子もとてもいいので、近寄（ちかよ）るやつには攻撃するぞ、という、かまきりの気持ちを表しているよ。



『あきのひ』の情景と内容

『あきのひ』のテーマは秋。
うたっている自然のキャラクターは「のぎく」。

情景

秋になって、少し肌寒（はださむ）くなって、日も短くなっていく様子が書かれているね。

内容

「かぜがとおりました」や、「はなびらをゆすりました」からは、秋になって少し冷たい風が吹いたり、花びらが散っていく予感のようなものを感じさせるね。

「ゆうひがくるくるとしずむところでした」からは、日がだんだんと短くなっていく雰囲気伝わってくるね。

『いのち』の情景と内容

『いのち』のテーマは冬。
うたっている自然のキャラクターは「けやき」。

情景

冬になって、すっかり枝だけになってしまった「けやきの木」だけれど、たくさんのことりたちが「けやき」の枝にとまってくれていて、寒さの中にもあたたかみを感じさせる情景が書かれているよ。

内容

冬の間は枝だけになってしまって、まるで木や花は死んでしまったように見えることもあるよね。

でも、けやきの木はたくさんのことりたちを「ふところにだいて」「とても あたたか



いのである」といって、ことりたちを「わしのしんぞう」とたとえているね。

「だからわしはいつまでもいきていくのである」「いつまでもいきていてよいのである」という言葉からは、厳しい冬を乗り越えて、また春に新しいのち（葉っぱや花、実）を生み出す自然の強さを感じることができるね。

テスト対策ポイント②

表現の工夫について

「野原はうたう」には、いくつか表現の工夫が使われているよ。

表現の工夫① 倒置法（とうちほう）

倒置法とは

文章の語順をあえて通常とは逆にすることで、印象を強める効果がある表現技法のこと。

「あしたこそ」では、倒置法が使われているよ。

「あしたこそ」第二連 一行目

とんでいこう どこまでも

ふつうの並び方だと、「どこまでも飛んでいこう」になるところを、ひっくり返して「とんでいこう どこまでも」とすることで、印象に強く残るようにしているね。

表現の工夫② 対句

対句法とは

似た表現や、関係する表現を並べる事で、リズムを作ったり、印象を強くする効果がある表現技法のこと。



「おれはかまきり」では、対句が使われているよ。

「おれはかまきり」
 第一連 一・二行目

 おう なつだぜ
 おれは げんきだぜ

 第二連 一・二行目

 おう あついぜ
 おれは がんばるぜ

第一連の一・二行目と、第二連の一・二行目は、似たような言い回しになっているね。

表現の工夫③たとえ

「いのち」では、表現の工夫として「たとえ」が使われているよ。

「いのち」一～三行目

 わしの しんぞうは
 たくさんの
 ことりたちである

「いのち」を歌っている自然のキャラクターは「けやき」だね。

けやきは、「ことりたち」を「わしの しんぞう」だと、たとえているね。

ことりたちのおかげで、とてもあたたかくて、いつまでも生きていけることを、「しんぞう」と例（たと）えて、読む人の心に残るようにしているんだね。



「野原はうたう」テスト対策ポイント まとめ

「野原はうたう」まとめ

- 「野原はうたう」は、春・夏・秋・冬をテーマにした詩。
- それぞれの季節を代表する自然のキャラクターが、詩をうたっているように書かれている。
- それぞれの季節の詩の情景を理解しよう!
- それぞれの季節の詩の内容を理解しよう!
- 「あしたこそ」では、倒置法が使われている。
- 「おれはかまきり」では、対句が使われている。
- 「いのち」では、たとえが使われている。

